

令和 7 年度 唐津市立厳木小中学校 校内研究

I 研究主題

「主体的、協働的に学ぶ児童・生徒の育成」
～ 9 年間の系統性を意識した学習づくりと心づくり ～

II 研究主題設定の趣旨

昨年度から、旧厳木小学校と旧簗木小学校が統合して新たに厳木小学校となり、厳木中学校とともに併設校としてスタートした。一昨年度まで 3 校は、厳木町園小中連携に関する基本方針を基に、年 3 回の全体の会議や合同の研修、公開授業、校区内の合同清掃活動といった小中連携に関する取組を進めてきてはいたが、校内研究に関しては、各学校の実状や課題に即した研究主題や目標を基に、それぞれ異なる研究と取組を行ってきた。

小中 3 校が併設校となったことで、校内研究も一緒に進めることとなった。最初は、研究の方向性も手探りではあったが、大きく「授業づくり」と「生活づくり」の 2 つの柱を中心に、小中が連携協力しやすいという強みを生かしながら、研究と取組を進めることとした。

まず、「授業づくり」においては、各教科における 9 年間の系統性や単元の内容を見通した授業のあり方に焦点をあてて、取組を進めた。特に、小・中学校職員によるティームティーチングの授業実践と授業公開、授業で活かせる ICT に関するスキルアップを目指した職員研修などに取り組んだ。

次に、「生活づくり」においては、自他を尊重し協働して生活できる態度を育むために、立腰教育を小中共通の取組として進めたり、合同清掃活動や人権集会、放送活動など児童と生徒が連携・協力できる行事や活動を模索し実践したりした。

「授業づくり」と「生活づくり」の柱を中心に研究と取組を進めたことで、小中間の結びつきもかなり強まり、児童・生徒に対する互いの情報の共有がよりできて、小中の職員が 9 年間を見通しながら児童・生徒を育成しようとする意識が高まってきた。

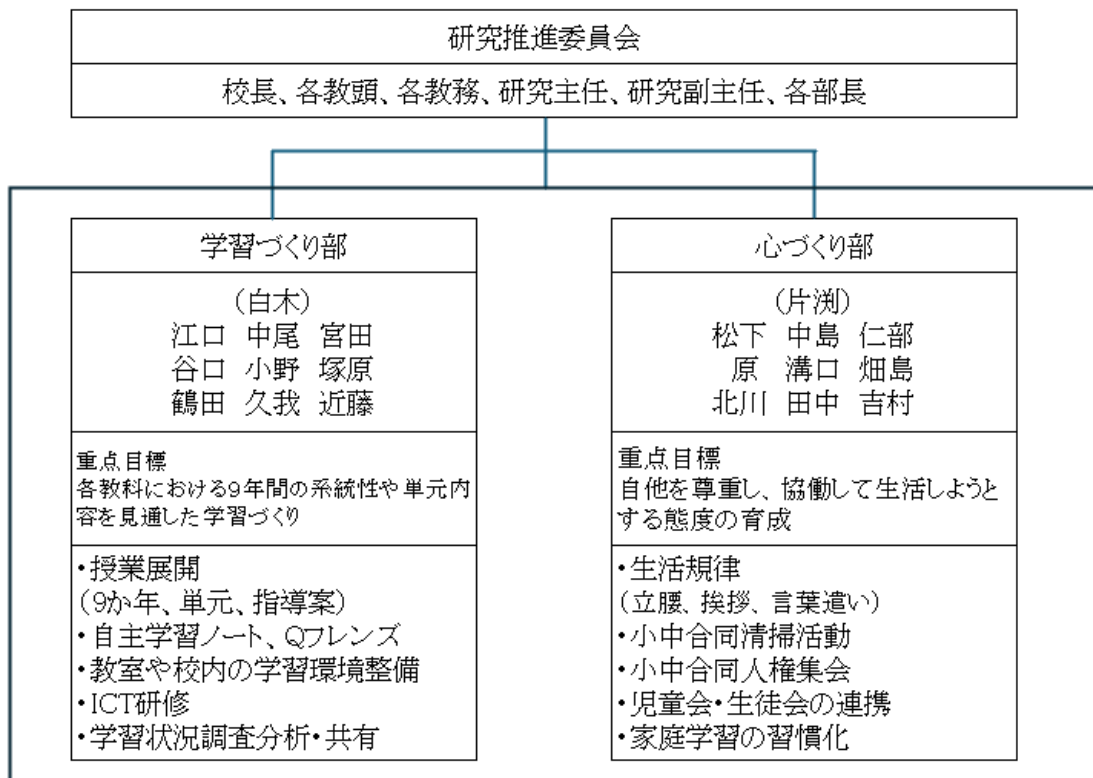
本年度については、昨年度の研究と取組をさらに発展させるべく、「授業づくり」は「学習づくり」として、「生活づくり」は「心づくり」として研究を進めることとした。学習面では、授業のあり方や改善に関することはもとより、児童・生徒の学力向上や自ら学び続けようとする意識の高揚、学習環境の整備など、学習全般に視野を広げて取組を進めたいと考えている。また、生活面では、立腰教育はもとより、言葉遣いや挨拶などの基本的な生活全般に関すること、児童と生徒が連携・協力した行事や活動をさらに推進させることなどに重点を広げたいと考えている。

以上のような研究の方向性を踏まえ、小中が今後もより一層連携協力しあい、9 年間の発達段階に応じた指導や教育活動を実践していくことで、主体的・協働的に学ぶ児童・生徒の育成を目指したいと考え、本主題を設定することとした。

III 研究の柱

- 9 年間を見通した学習づくり
- 9 年間を見通した心づくり

IV 研究組織、重点目標と主な取組



V 期待される研究の成果

- ・ 9年間を通した学習習慣の確立
- ・ 9年間を通した児童、生徒の道德心の向上
- ・ 小6児童の中学進学へ向けての不安感の軽減・解消
- ・ 児童、生徒、職員の ICT 利活用力の向上
- ・ 小中職員の異文化・相互理解
- ・ 児童、生徒の実態の詳細把握による個別最適な指導